自ら判断する力、失敗を恐れず行動する力を強化しよう!

— No Play, No error ガキャリア教育のカギ —

株式会社プライムタイム 代表取締役 坂 本 敦 子



人材育成コンサルタントとして独立して 20 年, 社会人や学生の支援をしてきた中で実感していることは,「自ら判断する力,失敗を恐れず機敏に行動する力」を社会人になる前の段階で強化する必要性である。

ビジネスを取り巻く環境の変化が激しく,スピードが加速している中で,既存のことや言われたことをやっていれば大丈夫という受け身な個人や組織は淘汰されてしまう。変化を迅速に把握し,「今,自分は何をするべきか」という判断を素早く下し,タイミングよく行動できる力を向上させることが,これからの時代を生き抜く上で重要なポイントである。

仕事でさまざまな企業に伺うと、「指示通りには 行動するが、自ら積極的に動かない指示待ち社員 が増えている」という話を耳にすることが多い。指 示待ち社員が増えるとムダな時間やコストが嵩み、 イノベーションや新たな価値創造のスピードが遅れ、 経営リスクが大きくなる。指示待ち・受け身な社員 の変革は、組織の経営課題の一つとなっている。

「指示待ち」と言われる社員は自分の考えを持っていないのだろうか?・・・直接本人に話を聞いてみると、自分の考えはしっかり持っていることがわかった。研修中も積極的に手を挙げて発言することはないが、こちらから指名したり、安心して発言できる場をつくれば、「できる力」は持っている。しかし、ビジネスの現場では限られた時間の中で自分の持っている強みを発揮してチームで結果を出すことが求められている。タイミングよく発信できなければ、何も考えていない人という評価をされても仕

方がない。せっかく「できる力」を持っているのに 自ら発揮しないということは、実にもったいないこ とだと感じる。組織の中で多様な個の強みを活か し合うことが大切だと言われるダイバーシティ経営 の時代になっているが、時代に人が追いついていな いのが現状である。

先日行われた新人研修で、「問題には気づいていたが手を挙げて自分の意見を言えなかった。そんな自分が情けない・・・」と落ち込んでいた社員がいた。なぜそのとき手を挙げられなかったのか聞いてみたところ、「手を挙げて目立つと周囲にどう思われるかが気になった。自分の考えに自信がなく、失敗したくないと思った」という答えが返ってきた。また、大学の就職講座で実習をした学生が、「実習はうまくできなかったが、実際に体験したからこそ学べたことが多かった。これからは失敗をたくさんする勇気を持ちたい」という意見を述べていた。

「No Play, No error」(成功の反対は失敗ではなく何もしないこと)という言葉を紹介すると座右の銘にしたいという若者が多いが、「失敗を恐れず、リスクテイクしてでもやる!」という勇気を奮い立たせてくれるキーワードになっているようである。

「失敗を恐れず、主体的に行動する力」は、「自ら達成したいと思う目標を持つこと」や「自己肯定感・自己効力感」とも連動しており、日々の体験の中で醸成されていくものである。社会人になる前の段階で実践的に鍛える場をいかに創るかが重要である。

鍛える方法の一つとして、「P・D・C・Aサイクル」 を繰り返し実践させることが効果的である。「自分 で判断して決めた納得感の高い目標・計画」が自 発的な行動,最後までやり抜く力につながり,「結 果のふり返り」が自分の判断力や取り組み方を向 上させる。たとえいい結果が出なくても「自ら考え, 判断し,取り組んだ!」ということが自信になり,本 人にとって大きな成果となる。また,「自分が考えて やったことの良かった点とその効果,うまくいかな かった点とその要因」をふり返ることで,自ら行動 したからこそ得られた学びがあることが実感でき, 失敗を恐れず主体的に行動する力や一歩踏み出す 勇気につながる。

日々の活動の中で「P・D・C・Aサイクル」を体験 させる場を意識的に繰り返し創っていくことが、今 後のキャリア教育の重要なポイントだと考える。

《P・D・C・Aサイクル 実践例》

※チームで共有しながら進めることで、一人ひとり の強みや多様性が活かし合えるので効果的

1. Plan:目標・計画を立てる

自分が達成したい目標とその理由を明確にする (目標設定は身近なテーマから始めると取り組みや すい)

目標を達成するための効果的・具体的な行動計画を立てる(取り組む期間・期限を設定)

2. Do: 実行する

3. Check: ふり返り

中間地点・最終地点で結果のふり返りをする。自 分の取り組みで良かった点とその効果, うまくいか なかった点とその要因をふり返り, 明確にする

4. Action: 改善・次の plan へ

気づいたこと、改善点を今後の行動にどのように 活かすかを明確にする

《キャリア教育支援者の注意点》

- ①本人が自ら答えを出すまでじっと見守っているか?急かせていないか?本人の思考・行動のプロセスをしっかり観ているか?
- ②失敗させないように先回りしたアドバイスをしていないか?「こうすべきだ」という押し付けではなく、本人の気づきを引き出す効果的な質問をしているか?
- ③内容の良し悪しではなく、自ら考え・判断したこと自体を認め、褒めているか?他者と比べていないか?

さかもと あつこ

株式会社プライムタイム 代表取締役 ※社名のプライムタイムは、「一人ひとりがイキイキと輝く時間」を意味しています。

- ・人材育成コンサルタント,産業カウンセラー, 心理相談員 , DiSC 認定コンサルタント, 公益財団法人山路ふみ子文化財団評議員
- ·経済産業省独立行政法人評価委員会委員 (2004年~2014年3月)
- ・2012年ビジネス界のアカデミー賞といわれる 『スティービー賞』 受賞

日本航空(株)に国際線客室乗務員として入社。首相特別機にも乗務。その後、BASF ジャパン(株)人事部で採用、人材育成の仕事に携わる。1995年独立、起業。のべ6万人の社会人と学生の成功体験・失敗体験の要因分析をベースに、人生・ビジネスのタイミングをつかむ実践行動学「タイミングマネジメント®」を開発し、2005年に発表。現在、経営幹部から学生まで幅広い層に対する研修、講演、執筆で幅広く活動している。http://www.primetime-winwin.com

著書

『タイミングをつかみとる人, はずす人』 (ダイヤモンド社)

※中国、韓国、台湾で翻訳出版されました。 『忙しい忙しいと言うわりに成果の出ないあなたのためのタイミング仕事術』(日本経済新聞出版社) ※タイミングマネジメント®は株式会社プライムタイムの登録商標です。